

2022年1月2日 新年礼拝(降誕節第2主日礼拝)

メッセージ「神と人々の間に生かされて」

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 2章41-52節

新年あけましておめでとうございます。全国的に大変寒い年末年始となりました。雪のほとんど降らない大阪のこのあたりでも、昨日や一昨日には雪がちらついていましたが、皆さんは如何お過ごしでしょうか。コロナ禍の中で迎える2回目のお正月となりました。思い返しますと、昨年 of 年末年始には、この時期の「風物詩」とも言える帰省ラッシュがなかったようですが、それが今年は戻ってきたそうです。新型コロナの感染がようやく収まったので、人々の移動が再開し、親族皆で集まった年末年始を過ごしているのでしょうか。もちろん、そんなことはありません。世界のニュースを見ていると、11月の末に南アフリカで発見された新型コロナウイルスの「オミクロン変異株」は、夏のデルタ株よりも更に感染力を増して、今や世界中を席卷しています。

にもかかわらず、世界中で人々の移動や活動が1年前よりも増えているのは、もう「家の中でジッとして、人と会わないようにする」ということに、限界を感じているからなのではないでしょうか。今後、日本でもこの年末年始明けに、全国で感染拡大が起こるかもしれないということを考えると、決して楽観視は出来ない状況なのではないかと思わされています。

この長引くコロナ禍の中、これまで「当たり前」だと思っていた生活が、あちこちでほころび始めて来ています。「グローバル経済」という言葉の下に、世界中がつながって人とモノ、情報が活発に行き来することは素晴らしいことのように思われていましたが、それは地球環境に多大な悪影響を及ぼし、また富を持つ国が富を持たない国の人々を搾取し、経済格差を助長するものでした。コロナ禍の中、ワクチンの接種状況は富裕国と途上国とでは大きな差が出ています。富める国がワクチンを買占めたために、途上国には十分な数のワクチンが行き渡らなかつたり、そもそもワクチンを広く接種していただくだけの社会基盤も整備されてないところも少なくないようです。そしてそのような格差が、オミクロン株という新たな変異株を生み、それが富裕国にも還流して、世界規模での感染を続けています。

WHO（世界保健機構）でも言われていましたが、これは医療だけの問題ではなく、地球規模での経済格差、いわゆる南北問題でもあり、途上国への支援体制を整えない限り、このパンデミックは終わりません。世界中で物流が滞っているために、これまでは「納品されて当たり前」「店頭で並んでいて当たり前」「値引きされて当たり前」だった多くのものが、なかなか納品されなくなり、店頭で並ばなくなり、値上げされるようになってきました。しかし、見方を変えれば、これまでの「当たり前」こそ、実は異常だったのかもしれない。こんなに遠くから運んで来たものが、こんな価格で売られているということは、本当に適正なことなのか。あまり深いことを考えずに、価格だけを見て購入するというその行為自体が、すでに誰かの足を踏みつけている上に成り立っているのではないか……。そのようなことにも改めて目を向けさせられています。

私たちは自分のこと、自分たちの身の回りのことばかりに目と心を奪われていますが、それだけでは見えてこないこと、解決しないこともたくさんあります。年末年始には、公官庁が休みになり、求人もなくなるということで、以前から各地の寄せ場では「越冬」が行われていますし、リーマンショック後には「年越し派遣村」が話題になりましたが、今年も各地で炊き出しやお弁当配りが行われているそうです。コロナ禍で仕事を失い、お金も住む所も失ったという方々が少なくありません。また病院や介護施設では、入院中の方や入居者の方が、感染予防のために家族とも面会が出来ないまま、2回目となるこのクリスマスから年末年始を過ごされています。そのような現実の中、神様は一体どこにおられ、その眼はどこに注がれているのでしょうか。

今回の聖書のお話は、イエス様が12歳の頃という子ども時代のお話で、「ルカによる福音書」にしか記されていません。お話の筋書きとしては、分かりやすいものかと思いますが、両親と別れた12歳のイエス様がエルサレムの神殿の境内で、大人の教師たち、いわゆる律法学者たちと話をしたり、質問をしたりしていたというわけですから、流石イエス様と言いたくなります。それを周りで聞いていた人たちも皆、イエス様の賢さとその受け答えに驚いていた、とも書かれています。確かに、イエス様なら幼いころから大変賢かったに違いない、とってしまいますし、事実教会では長くそのように伝えて来たのではないかと思います。しかし、宗教的偉人や哲学的偉人について、そのような人たちが幼い頃から、いわゆる「神童」ぶり

を發揮し、周囲から際立った存在であり、12 歳で転機を迎えるというのは、古代地中海世界の文学では広く定着していた一つの筋書きでした。そのために、この神殿でのイエス様の物語も、イエス様のずっと後の時代になってから、「イエス様は子どもの頃から偉大だった」ということを伝えたくて、このような書き方で書かれたのだと考えることができます。

そもそも、ナザレに住んでいたイエス様と両親が、毎年、過越祭の度にエルサレムにまで旅をしていたということも、どうでしょうか。ナザレからエルサレムまでは約 100 キロの道のりだそうですから、片道だけでも 2、3 日がかかります。エルサレムの都は人々であふれ返っていて、両親はイエス様を見失ったものの、親類や知人らナザレの村から一緒に行った人たちの中にいるものと思っていたようですが、ナザレの村から多くの人々が毎年お祭りの度に、エルサレムにまでお参りに行く、などということが現実にはあったのでしょうか。確かに『ヘブライ語聖書』の「律法」には、年に 3 回のお祭りをを行い、その際には成人男子はみな主の前に立ちなさい、つまり神殿詣でをしなさい、と記されています（出 23、申 16）。しかし、それがイエス様の時代に、どれだけ厳密に守られていたのかは分かりません。ナザレという小さな村の、貧しい木工職人や石工として育っていたイエス様が、両親と一緒に毎年エルサレムに行くほどの経済的余裕があったとも考えられません。父親と長男だけが行くのであればまだしも、母親も一緒に行っているなら、イエス様の下の兄弟姉妹たちはどうなっていたのかなど、細かい所を上げだすとキリがありません。

このお話は、恐らくは後代の創作だろうと考えられます。福音書に記されているイエス様の言葉を振る舞いから、浮かび上がる神殿におけるイエス様とは、律法学者たちから律法について熱心に学び、対等に議論するという姿ではなく、むしろ宗教的な清さを保つことが出来ない人々を、宗教的権威によってないがしろにしていた宗教者たちの不正を糾弾する姿でした。またその眼は、律法に定められた規定通りに神殿にお参りをして、献げ物をする人たちに向けられていたのではなく、むしろそれができない人々、わずか 2 枚のレプトン銅貨 2 枚しか献金できない貧しいやもめ（ルカ 21）や、神殿の遠くから「罪人の私を憐れんでください」と祈ることしかできなかった徴税人（ルカ 18）にこそ向けられていました。なぜなら、イエス様自身も、そのような律法に定められた規定通りの神殿参りをできなかった…、だからこそその姿勢だったのではないかと思います。

このお話が、私たちに告げていることは、イエス様が子どもの頃から偉大だったということではなく、むしろイエス様が「私は自分の父の家にいる」と母マリアに答えた言葉と、「イエスは神と人々からの恵みを受けて、育っていった」ということではないでしょうか。もちろん「自分は神の子であるので、父なる神のいる神殿にいて当然だ」というような杓子定規な解釈ではありません。後にイエス様は「私の母、私のきょうだいとは、(血縁上の関係性ではなく)神の言葉を聞いて行う人たちのことである」(ルカ 8:21)とも言われています。すべてを創られた命の神は、神殿の中にだけ留まっている神ではない。律法に定められた規定通りに出来ない人たちを見捨てて切り捨てるような神ではない。神と人々からの恵みは、お祭りの中でのみ与えられるものではなく、普段の日々の生活の中で与えられるものだ、ということなのではないでしょうか。

『ヘブライ語聖書』の中では、神は雲や煙の中で現れたり、天変地異や災いを起こして人々に存在を示したりしていますが、そんな神がクリスマスに人間となりました。しかも、赤ん坊として生まれました。神様として周りの人たちをお世話してあげよう、救ってあげようというのではなく、むしろ反対にお世話してもらわなければ生きていけない一番弱い存在として生まれました。それは私たちが、イエス様のお世話をするためであり、私たちにはそれが許されている、それをすることが出来るということなのでしょう。イエス様は「(あなた方は)私につながっていなさい。私もあなたがたにつながっている」(ヨハネ 15:4)と言われました。私たちがイエス様につながり、イエス様の中に生かされているとは、他の方々も皆、同じようにイエス様とつながっており、イエス様の中に生かされているということです。クリスマスに神が人間となったということは、私たち人間による人々の働きの中に神の業が現れるということです。

私たちは今日も神と人々の間に生かされています。新しく始まった 2022 年、これから世界がどのようなようになっていくかは分かりません。誰も予想していなかったことが起きるかもしれません。しかし、どのようなことが起きても、神様の恵みは神殿の中、教会の中に、閉じこもってはおられません。私たちすべての人たちと共にあり、共に生き働いておられます。強い者と弱い者をひっくり返す神の国の働きに、続いていく者として、私たちもここから歩み出していきます。